

研究主題 **小学校国語科における知識・技能の活用を  
図る学習活動に関する指導展開例の作成**

【研究担当者】 片方元昭

【この研究に対する問い合わせ先】

Tel 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

## ■ 研究の目的

平成20年度の全国学力・学習状況調査や本県の学習定着度状況調査では、「話すこと・聞くこと」「言語事項」においては平均正答率が概ねよいものの、「読むこと」「書くこと」における思考力や表現力を問う問題や記述式の問題については課題が見られます。このことは、調査開始以来、指摘されてきていることです。思考力や表現力はすぐに身に付くものではありません。低学年から基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を継続して行うことで身に付いていくものです。

しかし、これまでの結果を見ると、学習内容を理解させることに重点を置いた授業は行われていたものの、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、説明したり、報告したりといった言語活動を位置付けた授業は十分行われていなかったのではないかと考えられます。

このような状況を改善するためには、学習指導要領が示す指導事項に照らし合わせて、対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を単元指導計画に位置付け、言語活動をとおして学ばせていく指導を展開する必要があります。

そこで、本研究は、「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会、2008）に基づいて、小学校国語科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例を作成し提示することをおして、授業の改善に役立てようとするものです。

## ■ 国語科における「活用」に関する学習活動

本研究では、「『活用』に関する指導資料」において示された国語科における以下のような学習活動を、「活用」を意識した学習活動ととらえます。

- (1) 既習内容を使いながら、自分の考えをまとめ表現する学習活動
- (2) 互いに考えを交流し、評価し合う学習活動
- (3) 物事を関連付けたり、整理したりしながら課題に取り組む学習活動
- (4) 様々な文章や本に接しながら、身に付けた言語能力を発揮していく学習活動

授業者が、指導事項を言語活動をとおして指導することで、児童は習得した知識・技能を活用することができます。

■ 授業実践 I について (様々な文章や本に接しながら、身に付けた言語能力を発揮していく学習活動)

単元名：「好きなところをしょうかいしよう」(本と友だちになろう)  
 教材名：「スイミー」(光村図書2年上 p40～p53)  
 対象学年：第2学年



【単元について】

本単元の指導のねらいは、「登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる」と「好きなところを紹介するために、本を選んで読むことができる」です。このねらいを達成するために位置付けた言語活動は、「読んだ本について、好きなところを紹介すること」です。

本単元の構想の特徴は、以下のとおりです。

- ・第一次では、本を紹介する活動への意欲付けを図り、学習の見通しをもたせます。
- ・第二次では、本の紹介活動を意識して、学習した場面について好きなところを書く活動を行います。
- ・第三次では、第二次の学習を生かして自分で本を読み、紹介カードを書く活動を行います。

【単元構想】

【ノートの記述内容 (6/14時)】

段階	主な学習活動
第一次	1～2時 ○単元の学習課題「好きなところをしょうかいしよう」を立て、学習の見通しをもつ。 ○初発の読みで、「スイミー」の好きなところを書いて交流する。 【言語活動】
第二次	3～8時 教材文を読む。 ○場面の様子を想像して読む。 ○学習した場面について、好きなところを書いて交流する。【言語活動】 ○好きな場面を選び、発表する。
第三次	9～14時 おもしろそうだなと思う本を探して読み、紹介カードを書いて交流する。【言語活動】 ○紹介カードの書き方を理解する。 ○おもしろそうだなと思う本を探して読み、紹介カードを書く。 ○紹介カードを見合い、夏休みの読書計画を立てる。

○わたしが一ばんころにのこったところは、さいごの大きな魚をおい出したところ。わけは、あさからひるまでがんばっておよいで大きな魚をおい出してすごいと思ったからです。

○ぼくが一ばんすきなところは、大きなさかなをおい出すところ。わけは、みんなできょうりょくして大きなさかなをおい出してすごいと思ったからです。

※初発の感想で、挿し絵に着目していた児童も、登場人物の行動に着目できるようになりました。

【紹介カード】

※「スイミー」の学習を生かして、主人公ニコラスの行動に着目した感想を書きました。

【児童の学習感想より】

○本がおもしろいと思うことができるようになりました。これからも本をかりたりかたりしていっぱい読みたいです。おもしろいところをいっぱい見つけたいです。

○この2週間で本をしょうかいできるようになりました。なつ休みのあいだいっぱい本を読みます。

○楽しかったことは、スイミーの気持ち考えたことです。わたしができるようになったことは、スイミーの気持ちを考えられることです。これからはいろいろな本を読みます。

※児童は、登場人物の行動に着目して読み進めると、内容の大体をつかむことができるということを学びました。そして、本を読むことがおもしろくなったようです。実際、夏休みの学校図書館の貸し出し冊数も全校で一番多い学年になりました。

■ 授業実践IIについて（物事を関連付けたり、整理したりしながら課題に取り組む学習活動）

単元名：「大事なことをたしかめよう」

教材名：「すがたをかえる大豆」「食べ物がかせになろう」

（光村図書3年下 p22～p32）

対象学年：第3学年



【単元について】

本単元の指導のねらいは、「大豆を食べる工夫について、段落相互の関係をとらえながら読み取ることができる」、「身近な食べ物について調べるテーマを決め、書く上で必要な事柄を調べることができる」、「身近な食べ物について、事例を挙げて書くことができる」です。このねらいを達成するために位置付けた言語活動は、「収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書くこと」です。

本単元の構想の特徴は、第二次で、内容の読み取りとともに、事例の挙げ方などの筆者の書きぶりにも着目させることです。この学習を生かして、第三次の「食べ物がかせになろう」では、調べた食べ物について説明する文章を書く活動を行います。

【単元構想】

段階	主な学習活動
第一次	<p>1時</p> <p>○身近な食べ物について興味をもち、「食べ物がかせになろう」の学習活動に意欲をもち。</p> <p>※説明する文章を書くために「すがたをかえる大豆」を読むという、読みの目的をもたせます。</p> <p>2時</p> <p>○全体の構成と内容の大体をとらえる。</p>
第二次	<p>3～6時 大豆をおいしく食べる工夫について読み取る。</p> <p>※書くことの学習活動につなげるために、内容の読み取りとともに、筆者の書きぶりにも着目させます。</p>
第三次	<p>7～17時 食べ物について調べて説明する文章を書く。</p> <p>※「すがたをかえる大豆」で学習した筆者の表現方法を生かして取り組ませます。</p> <p>○テーマを決める。</p> <p>○本を読んで調べてカードにメモする。</p> <p>○カードを整理して順番を考える。</p> <p>○カードのメモを説明する文章にする。</p> <p>○清書して本を作る。</p> <p>○お互いに読み合う。</p>

【筆者の書き方に着目した読みの一場面(5/17時)】

T 工夫と食品を読み取ってきて、説明の順番で何か気が付いたことはありませんか。

C<sub>1</sub> だんだん時間がかかる作り方になっています。

（中略）

T どうして筆者は、このような順番で説明したのでしょうか。

C<sub>2</sub> わたしたちが読んでも分かるように、分かりやすい順番にしたと思います。

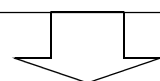
（中略）

T 自分が説明文を書く時には、どんなことに気を付けて書きたいですか。

C<sub>3</sub> いきなり難しいことを書かないで、簡単なことから説明したいです。

C<sub>4</sub> 分かりやすい変わり方から説明したいです。

（後略）



「すがたをかえる大豆」で学習した事例の挙げ方を生かした児童の説明文

すがたをかえるトウモロコシ

夏によく食べるやさしいとして、キュウリ、スイカなどさまざまな食べ物があります。その中で、いろいろな食品になって食べられているものがあります。何だか分かりますか。それは、トウモロコシです。

まず、みんながよく知ってるポップコーンです。電子レンジに入れて三分したら、取って、しおをふって味つけします。

次に、ジャイアントコーンです。大つぶのトウモロコシを油であげてしお味をつけた物です。

そして、こなにひいて作る食品があります。こなにひいた物を形づくってあげた物にあつ力のさでふくらませたのがコーンスナックです。コーンフレークは、こなにしたトウモロコシにねつを加えながら小さく小さなチップにした物です。さとうなどで味つけした物もあります。

さらに、コーンスターチです。トウモロコシから取ったでんぶんのこなです。ビスケット、アイスクリームなどおかしものざいりょうに使われています。

これらのほかに、ビール、ウイスキー、水あめのさとうるい、コーン油やお茶にも使われています。

このように、トウモロコシは、いろいろな食品にすがたをかえて食べられています。トウモロコシはほす事で長い間ほぞんする事もできます。

トウモロコシがいろいろなすがたにかえられている事を知ってびっくりしますね。

【児童の学習感想より】

すがたをかえる大豆を読んで、大豆がちがう食品になることを知って楽しかった事です。今度の勉強にもならなかったことを使っていたいです。

## ■ 授業実践を終えて

### ○ 成果

- ・単元指導計画に言語活動を位置付け、言語活動をとおした指導により、児童一人一人が習得した知識・技能を活用しながら意欲的に教材文を読んだり文章を書いたりすることができました。また、教材文の内容理解を促すことにもつながりました。
- ・言語活動の時間を十分に確保した指導構想により、児童一人一人が習得した知識・技能を活用して、思考したり、表現したりする学習活動を行うことができました。

### ● 課題

- ・日常生活に学習したことを生かす工夫として、読書郵便などに取り組みました。これからも、総合的な学習の時間や他教科との関連を図りながら、学習したことを生かす活動を取り入れていきたいです。

## ■ 作成した指導展開例の一部

授業実践で得られたことを生かして、下のように指導展開例を作成しています。

小学校 国語科 第3学年 「読むこと」「書くこと」  
大事なことをはかめよう「すがたをかえる大豆／食べ物はかせになろう」  
(1村誌 3年下 下巻P22～32)  
―物事を関連付けたり整理したりしながら課題に取り組み学習活動として―

4 カードに書いたメモを説明する文にする展開案 13・14/17時

#### 1 本単元における指導のねらい

- ・大豆を食べる工夫について、段落相互の関係をとらえながら読み取ることができる。「読むこと イ」
- ・身近な食べ物について調べるテーマを決め、本を読んで、書く上で必要な事柄を調べることができる。「書くこと ア」
- ・書くこととすることの中心を明確にして、身近な食べ物について、事例を挙げて書くことができる。「書くこと ウ」

#### 2 本単元における活用を意識した流れ

本単元では、「ありの行列」(3年上)で学習した、中心となる文や繰り返し出てくる言葉、題名とつながりのある言葉などに気を付けることを活用して、「すがたをかえる大豆」のおいしく食べる工夫の事例などを読み取ります。

「すがたをかえる大豆」については、「食べ物はかせになろう」の学習活動を意識して、伝えたいことの中心は何か、事例の挙げ方はどうなっているかも考えさせます。そして、「食べものはかせになろう」の学習活動では、「すがたをかえる大豆」の学習を生かして、伝えたいことの中心を明らかにして、必要な事例を挙げて説明する文を書くようにしていきます。

本単元の学習は、総合的な学習などのテーマについて調べて説明する学習活動などに生かされます。

単元の流れ (全17時間)	身に付けさせたい言語能力	言語活動	活用する基礎的・基本的事項
○「食べ物はかせになろう」に取り組み意欲をもつ。(1時間)	・目的をもって文章を読む。	収集した資料を効果的に使って、説明する文を書く練習をしよう。	○説明的な文章を読んで感想を書く。 「どうぶつのはなやん」1年下 「一本の木」2年上 「ありの行列」3年上
○「すがたをかえる大豆」について、伝えたい中心や事例について読み取る。(5時間)	・中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考える。 ・指示語や接続語、文末表現に注意して読む。 ・自分の考えが明確になるように、文章の構成を考える。		○中心となる文、繰り返し出てくる言葉、題名とつながりのある言葉などに気を付けて読む。 「ありの行列」3年上 ○説明文の書き方を生かして書く。 「じどう車くらべ」1年下 「一本の木」2年下
○身近な食べ物について、本を読んで調べ、伝えたいことの中心が分かるように、説明する文を書く。(11時間)	・調べるために本を運んで読む。 ・自分の考えが明確になるように、段落相互などの関係に注意して書く。 ・目的に応じて事例を挙げて書く。 ・敬体と常体との違いに気を付けて書く。 ・間違いを直すこと。 ・書き方に着目して、感想を交流する。		○筆者の書きぶりに着目して読んで読んで「すがたをかえる大豆」の学習。 ・段落相互の関係を考える。 ・指示語や接続語、文末表現について気を付けて書く。

#### 4 カードに書いたメモを説明する文にする展開案

本時のねらい  
カードに書いたメモを説明する文章にすることができる。

本時の展開案

導入	主な学習活動	※留意事項
1	本時の学習課題をつかむ。 カードに書いたメモを説明する文にしよう。	
展開	2 調べて分かったことを書いたカードについて、説明する文にする。 (1) カードの例を、「すがたをかえる大豆」で学習したことを生かして、説明する文にする。 ※調べて分かったことを書いたカードの例を用い、一つのカードにつき一つの段落に、説明する文にして書く学習の流れを確認する。 ※接続語を使ったり、文末を敬体にしたりして書くことを確認する。 (2) カードに書いたメモを説明する文にする。 (3) 書いた文章を読み直す。 ※伝えたいことが分かるか、接続語の使用は正しいか、文末は敬体になっているかなどを確認する。	
終末	3 学習を振り返る。 4 次時の学習内容を確認する。	

本時の活用を意識した指導について

○本時は、カードに書いたメモを説明する文にします。児童が、学習した「すがたをかえる大豆」を参考にして、接続語を入れたり、文末を敬体にしたりして説明する文を書くことができることを目指します。

メモを書いた文を説明するための文に書くために。

メモの例を説明する文にします。「すがたをかえる大豆」の書き方を参考にして、説明する文にしてみよう。

○意識させたいこと

- ・接続語を使う。
- ・文末を敬体にする。
- ・一文を長くしないようにする。

「いちばん分かりやすいのは、アイスクリームです。牛乳にさとうを合わせてひやすとできます。」と書きます。

メモを説明する文にするには、どんなことに気を付けるといいですか?

○初めにつき言葉を使います。  
○文の終わりは「です」「ます」にします。  
○文を長くしないようにします。

研究内容の詳細については、当センターWebページに資料を掲載しておりますのでご覧ください。作成した小学校国語科における知識・技能の活用を図る指導展開例についても同ページに掲載する予定です。(岩手県立総合教育センターWebページ <http://www1.iwate-ed.jp/>)

- 4 -